

第2期 (R7) 第3回 地域・実践分科会

2026年2月24日

事務局

目次

1 座長挨拶：深尾座長

2 本日のディスカッションのポイント：事務局

3 事例紹介

(1) 地域産業を切り口とした取組：静岡銀行

(2) 大企業による地域づくり支援：JR西日本

(3) ギャップファンドによるSU創出支援：TeSH (Tech Startup HOKURIKU)

(4) アクセラレータープログラム・エクイティ出資ほか：D2 Garage

4 意見交換：工藤副座長

5 閉会：深尾座長

目次

1 座長挨拶：深尾座長

2 本日のディスカッションのポイント：事務局

3 事例紹介

(1) 地域産業を切り口とした取組：静岡銀行

(2) 大企業による地域づくり支援：JR西日本

(3) ギャップファンドによるSU創出支援：TeSH (Tech Startup HOKURIKU)

(4) アクセラレータープログラム・エクイティ出資ほか：D2 Garage

4 意見交換：工藤副座長

5 閉会：深尾座長

(再掲) 地域でのインパクトファイナンスに関する課題感

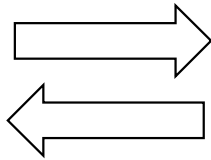
なぜ(Why)インパクトが有用か

→ 意義の理解そのものはクリアしやすい

- 地域経済の持続を目的として、リスク勘案の上で、地域にポジティブな影響をもたらす意図を持ってファイナンスを意義を理解
- インパクトというレンズを通じて、多様な価値を再評価・再発見し、行動変容

自治体

資金の
出し手



事業
会社

中間
支援組織

住民

- 地域における課題解決の価値を、インパクトの考え方を通じて説得力ある方法で資金の出し手を含むステークホルダーに共有できる

地場
大手企業

実践(How)における課題

→ 実践面では、様々な組み合わせが存在することを理解してアプローチする必要がある

資金の出し手

銀行

信用金庫

VC

PEファンド

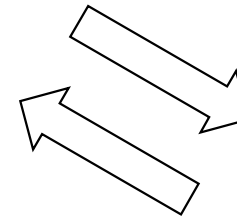
国

自治体

事業会社 (CVC)

etc.

- 実際の資金の出し手は、各機関毎に固有のリスク許容度とファイナンス手法を保有しており、**一機関であらゆるファイナンスに対応することは不可能**
- VCは首都圏に集中しており、事業者の目指す規模の目線が投資スコープに合わない等の理由で都市部以上に**リスクマネーの供給が限定的**
- 地域企業に単に資金を供給するだけでなく、**経営支援とより効果的なエンゲージメントのノウハウ**を持って初めて地域課題の解決にまで到達する



事業会社

A企業

B企業

C企業

D企業

etc.

- 経験に基づくそれなりの理屈があってもまだ非常にリスクが高いフェーズの企業において、デットによる調達を超えられない
- 企業によって状況が異なる中で、自社が誰から・どのようなファイナンスを受けるのが適切であるかを判別できない

＜エコシステム＞の観点

- 地域の抱える複合的な課題の解決のためには、1対1のファイナンスを通じた個別のインパクト創出には限界がある。地域全体の構造を捉えて、エコシステム内のステークホルダーや金融支援・非金融支援を集めて「束」にするアプローチが重要

＜資金ギャップ＞の観点

- 地域全体の構造を捉えて、資金ギャップはどこにあり、それをどうやって埋めるのかを検討する必要

上記のような観点から、エコシステムを捉えた①取組の「束」化の促進、②ギャップを埋めるファイナンスを促進するうえで、どのような事例があり、どのような課題があるか

今回の紹介事例

- 前回分科会においては、「呼び水型の資金連携事例」としてブレンデッドファイナンスの活用について取り上げた
- 本分科会においては、地域内で資金が好循環するようなエコシステムの解像度を高め、地域インパクト創出において有用と考えられる金融アプローチの示唆を得る観点から、特徴的な4つの事例を紹介する

	機関名	登壇者	概要
1	(株)静岡銀行	コーポレートサポート部 法人ファイナンスグループ 課長 鄭 鉉澈 様	静岡県製茶産業は日本の荒茶生産量の約4割を占める一大産地でありながら、需要減少による収入減、茶栽培農家数の減少等のさまざまな課題に直面。静岡銀行が中心となり碾茶栽培の導入等の体制転換を製茶業者や茶農家に提案、支援することで製茶産業の活性化を目指す
2	西日本旅客鉄道(株) (JR西日本)	地域まちづくり本部 地域共生部 次長 後藤 学 様	瀬戸内地域を面的に捉えて活性化に取り組むせとうちパレットプロジェクトを2018年より開始。ファイナンスと人財の両面で中間支援の役割を担い、地域活性化に貢献。香川県三豊市で瀬戸内ビレッジが実施した「ローカルIPO」プロジェクトにおいては出資者として参画、地域における資金の好循環モデルの形成に貢献
3	Tech Startup HOKURIKU (TeSH)	北陸先端科学技術大学院大学 特任教授 Tech Startup HOKURIKU プログラム代表 内田 史彦 様	北陸地域はニッチトップの製品群・高い研究力を有しながらもスタートアップ数は限定的。「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」に名を連ねるTeSHは13大学が参画、金融機関・地域VC等67機関が協力機関・事業化推進機関として参画。アーリーシード期の研究成果に出資。2026年事業においては「社会的インパクト枠」を設定
4	(株)D2 garage	インキュベーショングループ マネージャー 豊田 睦雄 様	北海道新聞とデジタルガレージが共同設立した企業。北海道から世界へ羽ばたくスタートアップの育成のため、エコシステム構築、アクセラレータープログラム、スタートアップ投資等、一気通貫の支援を行う

1 座長挨拶：深尾座長

2 本日のディスカッションのポイント：事務局

3 事例紹介

(1) 地域産業を切り口とした取組：静岡銀行

(2) 大企業による地域づくり支援：JR西日本

(3) ギャップファンドによるSU創出支援：TeSH (Tech Startup HOKURIKU)

(4) アクセラレータープログラム・エクイティ出資ほか：D2 Garage

4 意見交換：工藤副座長

5 閉会：深尾座長

地域の課題構造を捉えてインパクトファイナンスを実施する意義について

個別企業ごとにインパクトファイナンスを検討するプロセス



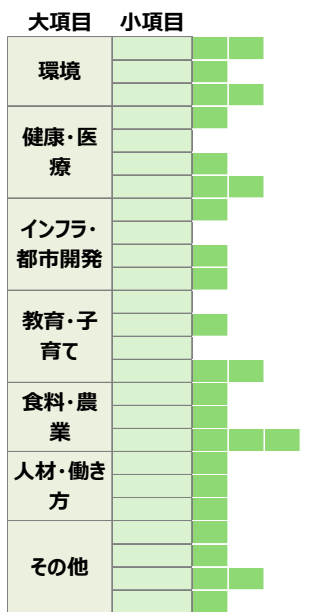
- ✓ 個社のポジティブインパクト(PI)・ネガティブインパクト(NI)の検討が出発点となる
- ✓ 企業の重要課題の分析が主となり、排出量や企業内の雇用・福利厚生等、対象インパクトは本業外の項目が多い。企業の持続可能性は向上が見込まれるが、検討プロセス上、地域の重要課題の分析を実施する構造になっていない
- ✓ 一社一社へのファイナンスはインパクト増減の意図を持って行われるが、対象は分散的。多数の中小企業にPIFを実行しても地域全体に与えるインパクトという観点では限界がある

地域の課題構造を踏まえてインパクトファイナンスを検討するプロセス



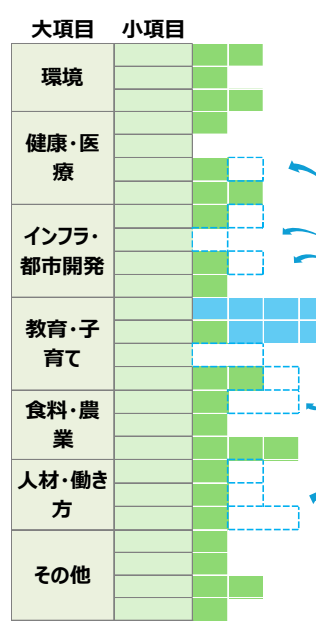
- 地域内の複雑な因果関係の分析が必要となるためKPIの策定含めロジックモデルの整理には時間・労力を要するが、
- ✓ 地域社会のコア課題の分析が出発点となり、地域のコア課題の解決に向けた差分(インパクト)を中心に検討するため、長期的に地域全体に与えるインパクトが大きい
 - ✓ 整理されたロジックモデルが活用され、複数企業への金融支援及び非金融支援を明確な意図を持って統一的に検討することができる
 - ✓ ファイナンス領域を特定していても、対象課題解決企業が地域に存在しないケースがあるため、自治体、中間支援機関、金融機関の連携による非金融の取組の重要性が高い

創出インパクト (イメージ)



地域のコア課題を捉えた取組になりにくく、領域が分散

創出インパクト (イメージ)



意図を持った金融・非金融の取組により有意なインパクト創出

コア課題の改善により派生的に他課題へのインパクトも発生

1 座長挨拶：深尾座長

2 本日のディスカッションのポイント：事務局

3 事例紹介

(1) 地域産業を切り口とした取組：静岡銀行

(2) 大企業による地域づくり支援：JR西日本

(3) ギャップファンドによるSU創出支援：TeSH (Tech Startup HOKURIKU)

(4) アクセラレータープログラム・エクイティ出資ほか：D2 Garage

4 意見交換：工藤副座長

5 閉会：深尾座長

各事例から得られる示唆

- 各事例について、どのような「束」の取組としているのか、ギャップをどのように埋めているのかを整理

機関名	支援する段階	取組を「束」にするポイント
<p>1 (株)静岡銀行</p>	<p>創業 プレシード シード アーリー ミドル レイター</p> <p>課題に直面する既存産業に対し、構造転換に必要な金融・非金融両面での支援を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域課題を俯瞰的に分析し、レバレッジポイントと関係するステークホルダーの役割を特定し働きかけることで地域重要課題の解決に結びつける
<p>2 西日本旅客鉄道(株) (JR西日本)</p>	<p>創業 プレシード シード アーリー ミドル レイター</p> <p>「ローカルIPO」での出資に参画、地域金融機関等からの調達呼び水となるファイナンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 外部資金を拠出した地域のステークホルダーのエグジット時における架け橋的な役割を果たす ✓ 「ファイナンス」と「人財」両面で中間支援の役割を担う
<p>3 Tech Startup HOKURIKU (TeSH)</p>	<p>創業 プレシード シード アーリー ミドル レイター</p> <p>創業・プレシード段階の資金の出し手不在の問題を解消し、地域のスタートアップ企業創出件数拡大を支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国、自治体、海外VC、地域中核企業、地銀等、様々なステークホルダーと連携して創業・プレシード後の成長を見据えた支援を設計
<p>4 (株)D2 Garage</p>	<p>創業 プレシード シード アーリー ミドル レイター</p> <p>創業～シード段階のSU創出・資金調達を様々な金融支援・非金融支援により支え、地域のスタートアップ企業の創出・拡大に貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治体連携、産官学連携、アクセラレータープログラム等、スタートアップエコシステムの構築に関わる多様なプロジェクトを企画・運営

＜エコシステム＞の観点

- 地域の抱える複合的な課題の解決のためには、1対1のファイナンスを通じた個別のインパクト創出には限界がある。地域全体の構造を捉えて、エコシステム内のステークホルダーや金融支援・非金融支援を集めて「束」にするアプローチが重要

＜資金ギャップ＞の観点

- 地域全体の構造を捉えて、資金ギャップはどこにあり、それをどうやって埋めるのかを検討する必要

上記のような観点から、エコシステムを捉えた①取組の「束」化の促進、②ギャップを埋めるファイナンスを促進するうえで、どのような事例があり、どのような課題があるか

1 座長挨拶：深尾座長

2 本日のディスカッションのポイント：事務局

3 事例紹介：

(1) 地域産業を切り口とした取組：静岡銀行 様

(2) 大企業による地域づくり支援：JR西日本

(3) ギャップファンドによるSU創出支援：TeSH (Tech Startup HOKURIKU)

(4) アクセラレータープログラム・エクイティ出資ほか：D2 Garage

4 意見交換：工藤副座長

5 閉会：深尾座長